



特 許 願

(特許法第30条第1項の適用を受けようとする出願)
(特許法第30条第2項の適用による特許出願)

昭和46年10月31日

特許庁長官 斎藤 英 郎

1. 発明の名称 **共振集積分配装置**
2. 特許請求の範囲 **2**
3. 発明者 **氏名** 特許出願人と同じ
4. 特許出願人 **氏名** 井上 昌夫
住所 **東京都港区芝5丁目34番2号**
日本住友公団住戸前田第408号

5. 代理人 **平 105**
住所 **東京都港区西新橋3丁目5番8号**
大進ビル 電話 (591) 2065 番
氏名 **(6832) 弁護士 横田 輝 氏**

6. 添付書類の目録

- | | |
|-----------------------------|-----|
| (1) 明細書 | 1 通 |
| (2) 図面 | 1 通 |
| (3) 願書原本 | 1 通 |
| (4) 委任状 | 1 通 |
| (5) 出願審査請求書 | 1 通 |
| (6) 特許法第30条第1項の適用を受けようとする書面 | 1 通 |

明 細 書

1. 発明の名称

共振集積分配装置

2. 特許請求の範囲

(1) 同一あるいは異なる共振伝送体を各伝送体の途中で立体的に結合させ、その複数個の端面のうちの一部を駆動端とし、残る端面の一部あるいはすべてを負荷端とすることによって複合振動体を構成し、各駆動端にそれぞれ一個あるいは複数個の駆動振動子を設けて駆動し、前記各端面の駆動振動子から発生する振動パワーを駆動端から供給して複合振動体を弾性変形させることにより、前記複合振動体の内部に弾性振動パワーの形で集積させ、集積されて強力となつた振動パワーを前記複合振動体の結合部を介して負荷端から複数個の振動負荷へ同時に供給するように構成したことを特徴とする共振集積分配装置。

(2) 特許請求の範囲第1項に記載された共振集積分配装置において、前記複合振動集積分配装置を立

⑬ 日本国特許庁

公開特許公報

①特開昭 51-52598

④公開日 昭51.(1976) 5.10

②特願昭 49-12601P

②出願日 昭49.(1974) 10.31

審査請求 有 (全7頁)

庁内整理番号

7173 JJ
622P JJ

⑤日本分類

74 N1
102 H2

⑥Int. Cl.

B24B 1/04
B06B 1/00

体的に多数に連結することにより、駆動端および負荷端の数をさらに多くし、一そう強力な振動パワーをさらに多くの振動負荷へ供給するように構成したことを特徴とする共振集積分配装置。

3. 発明の詳細な説明

本発明は共振集積分配装置、とくに前記装置上に設けた複数個の駆動振動子を、一台の高周波電力発生装置へ接続することによって単一振動源放電の高周波電力を加えて増強し、各駆動振動子の出力端から発生する振動パワー出力を増強して強力化したのち、複数個の振動負荷へ同時に分配供給するようにした共振集積分配装置に関するものである。

近年、セラミックおよびフェライト等の振動子の発達に伴つて、振動パワーが各種方面において利用されるようになって来た。この場合、従来用いられている共振伝送の振動伝送体としては、ホーン形状をなした振動体が用いられており、この振動体の太端部へ固有振動数が一致する一箇ある

り、或数の負荷へ同時に振動パワーを供給することが出来る。

さらに本発明の装置を用いることによつて、一台の高周波電力発生装置の単一振動所放数で空間的に離れた複数の振動負荷へ、同時に振動パワーを供給することができ、従来のこの種の装置ではまったく実現不可能であつた振動パワーの分配供給法を実現するなど本発明の振動集積分配装置は種々の優れた効果を有する。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明による振動集積分配装置の一実施例を示す斜視図、第2図は真直棒とホーン形変断面棒とを組合わせた場合の実施例を示す斜視図、第3図および第4図は積放棒の変断面棒を組合わせた場合の実施例を示す斜視図、第5図および第6図は多度接続した場合の実施例を示す斜視図である。

1, 2 ... 真直棒 3 ... 複合振動体 4 ... 駆動端 5 ... 負荷端 6 ... ホーン形変断面棒 7 ... 変断面棒 8 ... 接続端

特開 昭51- 52598 の

